

2024 年度 (令和 6 年度) 学校評価自己評価表

駅家南	中学校区	校番 47	福山市立 駅家小 学校
最終更新日		2024 (令和6) 年2月5日	

I 福山市	<p>ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&amp;倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p>
-------	---

II 中学校区		育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	思考力・判断力	コミュニケーション能力	自己理解・自信
前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	駅家に愛着と誇りを持ち 主体的に行動する児童生徒		
<p>○各校の授業を交流し、授業改善を前向きに、引き続き行ってもらいたい。</p> <p>○不登校児童・生徒数と学校に來れない現状の把握を今後とも大切に取組んでほしい。</p> <p>○子どもに「生きる力」を身につけさせるのは、先生だけではありません。保護者、地域住民、本人が協力して、話しながら取組を進めてほしい。</p>	<p>○自己有用感、自己肯定感が低い児童・生徒において、学ぶ意欲の向上に課題がある。</p> <p>○学校や地域の課題を踏まえて、何が必要なのか考えたり、実際に解決するために行動化できる児童生徒が増えた。</p> <p>○長欠・不登校の児童・生徒数が増加傾向にあり、支援が必要である。</p>	中学校区として統一した取組等	<p>○教材研究を深め、子ども主体の授業づくりを行う。</p> <p>○保護者、地域と連携したふるさと学習を積み上げる。</p> <p>○自ら課題を見つけ、他者と協力して地域貢献できる子どもを育成する。</p>		

III 自校		育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	思考力・判断力	コミュニケーション能力	自己理解・自信	
ミッション	<p>教職員がやりがいを感じ、子供が社会の中で自分らしく生きることができ存在へと成長することを支援する学校</p>	めざす子ども像	低学年	意図をもって、選んだり行動したりすることができる。	自分と友達のよさに気づき、考えを伝え合うことができる。	わかったこと、できたこと、できるようになったことなど、自分自身を振り返ることができる。
学校教育目標	自分で考えて行動する		中学年	よりよい考えや解決のために、意図をもって選択したり選択し直したりすることができる。	自分と友達の相違点に気づき、認め合いながら、自分の考えを分かりやすく伝えることができる。	自分のよさや身に付いた力、課題などに気づき、生活に生かしたり改善したりすることができる。
現状	<p>〈児童生徒〉</p> <p>○全国学力・学習状況調査では、国語69 (国67. 2)、算数61 (国62. 5) で、合計は130 (国129. 7) と全国平均をわずかに上回った。</p> <p>○「友達と話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と答えた児童82%</p> <p>○「人の役に立つことを意識して、自分で考えて行動することができた」と答えた児童82%</p> <p>〈授業〉</p> <p>○児童同士で学び合いができるようになってきているが、学力定着に課題が見られる。</p> <p>○与えられた学習課題に対しては意欲的に学ぶが、自ら学びたいという意欲をもって取り組む姿はあまり見られない。</p>		高学年	自己決定と自己調整を繰り返しながら、よりよい解決や生き方を見つけ、生活に生かすことができる。	多様な他者の考えや個性を受け入れ、自分の考えを論理的に伝えることができる。	自分や他者のよさを認め合い、「なりたい自分」に向けて、客観的に考えて取り組むことができる。
		研究	テーマ	児童が「学ぶ過程」を楽しむ授業の創造 —児童の多様性を尊重したマイプラン学習を通して—		
			内容等	自己決定力・自己調整力の育成や教師の見取る力の向上を視点として研究を推進することで、「学ぶ過程」の楽しさを見出していく。		
		めざす授業の姿	<p>教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科・単元のねらいと本質を捉え、意味のある選択肢の提供や学習展開、振り返りの工夫を行い、児童の学びの質を高めていく。</li> <li>・児童理解・実態把握を行い、児童の学び方を適切に見取り、個別最適な学びの充実を目指す。</li> </ul> <p>児童</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら計画を立て、よりよい学び方を自分で選択したり、振り返りを行って自己調整したりする等、試行錯誤しながら学習を進める中で、最後まで粘り強く課題と向き合う。</li> </ul>			

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 駅家小 学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）				最終評価（2月末）				
							目標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	目標に係る取組状況 ◎短期（中期）経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
6	学ぶ過程を楽しむ児童の育成	★	継続	自己決定力や自己調整力を高め、自分で考える学びをすすめる	学期に1回以上マイプラン学習を取り入れた単元計画を作成、授業を実施し、教師の意図をもった選択肢や学習環境を設定する。	「目標をもって自分で学びを進めることや、考えることが楽しい」と答える児童の割合80%	各学級が学期に1回以上マイプラン学習を取り入れた授業を実施した。「目標をもって学びを進めることが楽しい」と答えた児童の割合は83%だった。	3	3	引き続き、学期に1回以上マイプラン学習を取り入れた授業を計画、実施し、児童の多様性を尊重した学習環境や個別支援の充実を図る。	各学級が年に3回マイプラン学習を取り入れた授業を実施し、学習環境や教師の見取りを意識して取り組むことができた。「目標をもって学びを進めることが楽しい」と答えた児童の割合は84%だった。	3	3	3	個人や教員間で、各教科・単元で付きたい力や本質を見極めた教材研究を行い、学習環境のより一層の充実と教師の見取り力の向上を図る。
2	生きる喜びを実感できる児童の育成		継続	自分で考えて行動できたことを評価し、自己有用感を高める	「クラスや学年、学校の役に立つ。」という視点で掃除や当番、係活動を工夫するとともに、クラスや学年、学校のために頑張っていることを認め合う活動（いいところ見つけ等）を取り入れる。	「自分はクラスの人の役に立っていると思う。」児童の割合70%	各学級で、帰りの会等でのいいところ見つけを取り入れた。「自分はクラスの人の役に立っていると思う。」児童の割合は、70%だった。	3	3	人の役に立つ行動をしている児童を、教師がしっかり見取り、クラスや学年で紹介することで価値づけを図る。児童会とも連携を図り、学校全体としての取組を強化する。	各学級で、いいところ見つけを行った。また、3月に児童会の取組として、「感謝の気持ちを届けよう週間」を行う予定である。「自分はクラスの人の役に立っていると思う。」児童の割合73%だった。	3	3	3	各クラス・学年での取組や児童会の取組に加えて、各委員会でのチェック表彰活動が児童の自己有用感を高める取組になるように工夫していく。
3	地域や学校に貢献できる児童の育成		継続	地域の一員、学校の一員として何ができるか自分で考えて行動する	ボランティア週間を学期に1回以上設定し、児童自身が校内や地域でできる活動を考え、児童のがんばりを奨励・顕彰する。	児童自身ができる活動を考え、ボランティア週間に7割以上実施できた児童（70%以上）	1学期、7月に2週間のボランティア週間を設定し、学校全体でボランティア活動に取り組ませ、8割以上実施できた児童は54%だった。	3	2	学期に1回以上ボランティア週間を設定し、1学期は8割以上実施した児童を表彰したが、2、3学期は児童自身が考えた活動を7割以上実施した児童を把握するとともに、毎日ボランティアに取り組んだ児童を放送で奨励・顕彰し、意欲付けを行う。	2学期、11月に2週間のボランティア週間を設定し、学校全体でボランティア活動に取り組ませ、7割以上実施できた児童は77%だった。	3	3	3	ボランティアの意義や学年・学級の実態に応じた活動の内容を丁寧に指導する。学期に1回以上ボランティア週間を設定し、児童自身が考えた活動を7割以上実施した児童を把握するとともに、進んでボランティアに取り組んだ児童を放送で奨励・顕彰し、意欲付けを行う。
2	全職員で進める働き方改革		継続	前年度よりも、1つでも業務改善をすすめる。	年間2回（夏季、冬季）に全体で業務改善について協議し、各部会等で検討する。	前年度よりも業務改善が進んだ項目（1つ以上）業務改善が前年度よりは進んだと感じる職員の割合80%以上	夏季休業中に、職員全体で業務改善について協議し、協議した内容について担当がまとめて、各部会等と連携して検討した。業務改善が前年度よりは進んだと感じる職員の割合は87%だった。	4	3	夏季休業中に協議した内容を検討し、実施できるものから取り組んでいくとともに、冬季休業中にも職員全体で業務改善の協議を行う。	夏季休業中に、職員全体で業務改善について協議し、協議した内容について担当がまとめて、各部会等と連携して検討した。業務改善が前年度よりは進んだと感じる職員の割合は85%だった。	4	3	4	職員全体での業務改善についての協議を定期的に行い、協議した内容について管理職や各部会等で検討し、学校全体で業務改善を進める。また、改善が進んだ内容については職員全体に周知し、さらなる改善に向けて意識付けていく。

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。